

Ⅲ 福島県の中学生の学習に対する意識と行動

— 県北地区に関する調査から —

この調査は、中学校段階での学習上の課題に関して、次の4項目について調査したものである。

- 学習一般
- 国語
- 数学
- 英語

調査対象は、県北地区中学校1～3年生、543人（サンプリング数の信頼度92.5%）であり、平成6年7月に実施した。なお、調査項目は学年別に詳細にわたるため、ここでは主たるものについてのみ述べたい。全体については、当センター発行の報告書「福島県の中学生の学習に対する意識と行動」を参考にしていきたい。

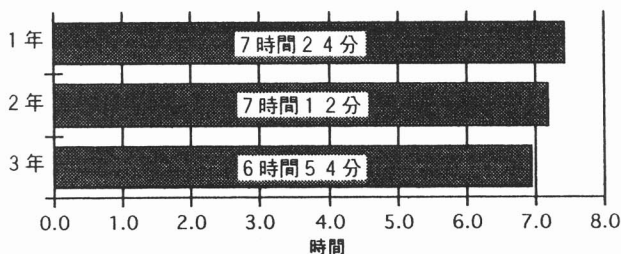
1 学習一般について

1 生活の基礎

(1) 起床・就寝・睡眠

起床時刻については、6：30分前後に集中しており、学年が上がるにつれて起きるのが遅くなっている。就寝時刻についても午後11：00前後に集中しており、学年が上がるにつれて夜更かしになっている。

平均睡眠時間



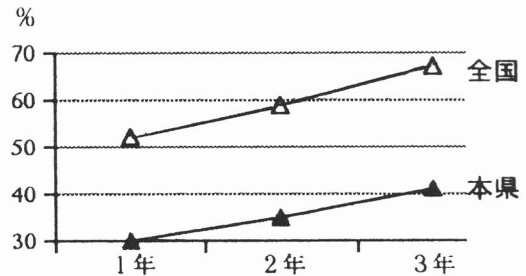
睡眠時間は、表のとおりであり、学年が上がるにつれて短くなり、3年生は7時間を切る。

これは、日本学校保健会による全国調査¹⁾と比べて、就寝時刻はほぼ一致するが、起床時刻はやや早く、睡眠時間もやや短めである²⁾。

(2) 学習塾・家庭教師及び習いごと

学習塾に通う生徒は、30～41%の間であり、平均して35.3%である。これは、文部省調査³⁾の全国の中学生平均59.5%に比べてかなり低い。

英語数学などの学習塾



一方、家庭教師については、3.7%であり、全国平均の4.8%より、若干低い。習いごとについても、21.3%で、全国の中学生平均28.3%よりわずかではあるが低くなっている。

(3) 両親の自分の学習への関心・相談など

両親が、自分の学習にどの程度関心を持っているかについては、1, 3年生の70%強が「関心あり」と意識している。しかし、2年生については、「関心が乏しい」とする者が、37%に上った。また勉強の相談については、学年が上がるごとに、放任的になり、3年生の両親の46%は、「相談にのってくれない」と子どもによって意識されている。

2 学習に対する意識

(1) 興味のある教科・ない教科

教科に対する興味関心について、ある・なしの上位5つを順に書かせ、点数化した。